

2019（令和元）年度 第4回伊賀市スポーツ推進審議会 会議メモ

開催日時	2019（令和）元年12月26日（木） 午後2時～3時40分
開催場所	本庁舎5階 501会議室
出席者	松寄敏之、坂口輝三、田中栄一、宮田久一、宮田慎一、栗野仁博、 福寿 勇、辻 喜嗣、前山正清、宮崎企画振興部長、滝川企画振興部次長 福谷スポーツ振興課長、岩野副参事
欠席者	山下明子、山本志賀子、内田崇之、樋口優子

1 あいさつ

2 協議事項

(1) スポーツ施設再編計画の策定について

ア スポーツ施設再編計画 素案について

1 あいさつ

- ・スポーツ振興課長司会進行
- ・松寄会長あいさつ
- ・宮崎部長あいさつ
- ・出席委員数の確認を行い会議の成立を報告

2 協議事項

(事務局) 先日事前に配らせてもらいましたが、それから部内で検討もしまして少し変更があり、新たに冊子を配らせていただいています。それでは変わったところを説明させていただきます。

第1に策定の趣旨、計画の背景ということで内容的にはあまり変わっていませんが、文章の順番などが変わっているので読ませていただきます。

第1 策定の趣旨（計画の背景）（資料P 読み上げ）

続いて計画の位置づけということで、これは配ったものと変わりありませんが、(3)計画の目標期間ですが、本計画の目標期間は令和2年度から令和11年度まで約10年間とします。個別計画の策定については長寿命化計画について言及するというので、長寿命化計画を策定しないといけないということを文科省から言われているので、それについて言及文言を入れたということです。

第2スポーツ施設を取りまく現状と課題では、大きな課題ということで人口減少、少子高齢化による課題。それと伊賀市の厳しい財政状況による課題。それと、(3)の持続可能なスポーツ施設の必要性ということで、これは文章では入っていたが、順番を変えて大きな課題の方に持ってきています。

それと(4)市民のスポーツニーズと課題ということで、こちらも大きな課題としてとりあげてあります。これも前の審議会の時にも文書に入っていたが、課題のところに入れてな

かったので、こちらの前に大きな課題として持ってきたということです。以上が策定の趣旨とスポーツ施設を取りまく課題です。ここまでの説明は以上です。

(会 長) 最初の背景から説明をしてもらったが、意見、ご質問はありませんか。

(事務局) 2ページ、今後のスポーツ振興を図るための整備や態勢を整えていくのも理由の一つです、と書いてあるのを、整えていく必要があるということに直していただけたらと思います。

(委 員) 3ページの10年間の間とは、この間に人口の関係とか施設の老朽化もするのではないのでしょうか。

(事務局) 計画を策定してからでも、計画的に改修、計画的に建替えが必要なので10年ぐらいのスパンで考えています。というのは、公共施設最適化計画というのは、来年度から5年間第2期の計画となっていて、そのあとの5年が第3期ということで5年5年のスパンで実施されるので、その体育施設再編計画についても5年スパンずつ10年間の計画ということを明記しました。

(委 員) いずれ施設は老朽化してくるから5年周期であってもいいと思うが。10年というと、これから10年は長いですよ。その間施設は老朽化するし、人口も変わってくるだろうし、見直すならできるだけ早く市民の皆さんにしてあげればいいと。

(事務局) 計画としては今年度。先に策定しておいて、その計画に沿って10年間の実施計画を立てるという運びになると思います。

(会 長) 他はどうですか。10年のスパンということですが。

(部 長) 言われるように年齢人口を見れば、来年は予定で84,023人。それから10年後が70,883人。12,000減ります。その後、2040年58,270人。推計人口でここまで落ちてきている。ただ、こういうことも視野に入れた上でこういう落ち方をする。人口比率も見ていただくと15歳人口がこんなに減ってきて、15歳から64歳の人口も途中から減ってくるとか、65歳の人口比率がまた上がって行くとか。こういったことになってくるわけだが、施設をなくそうとか新たに作ろうということになると非常に時間がかかります。住民の理解とか、いろんな工事費とかもかなりかかります。その意味では10年ぐらい先のありかたを見据えた計画を作っていただくことが、計画の実行性を担保するという意味でも一番適切なスパンかと思います。

ただ個別計画においては、基本的な大きな計画があり、そのあとに個別的な計画を位置づけようとしているわけですが、その個別的な計画の中では期間を5年5年で2回に分けなさいとか、そういう話が出てきてもいいのかと。当面の5年間、当面の5年間というように二つに分けるのも可能かと思っています。全体像を見据えた施設の必要性とか統合だとか、そういうところについては10年ぐらいの計画で見ていただくのが適切かと思っています。

(会 長) 個別計画の中では、もう少し施設によっては細かい期間の見直しもするということがあります。一応全体計画としては10年間を見通して計画していきたい。ほか、よろしいですか? では次へ進みたいと思います。

### 第3 スポーツ施設が抱える課題【カテゴリー別】(資料P7～)

(事務局)

#### ① 体育館等屋内スポーツ施設

体育館とかグラウンドとか、種別ごとに課題を書いている。上の表は平成25年度から30年度の体育館の利用人数です。下の表は建築年度とか耐震とか稼働日数稼働率を記載しています。体育館には、市の体育施設だけではなく県営のゆめドームうえのの利用人数もあげてあります。

——資料P7読み上げ

#### ② 屋内スポーツ施設

屋外スポーツ施設についても同じで、施設の利用者数と建築年度稼働率を書いています。

——資料P8読み上げ

#### ③ プール

プールについては、市営プールが2施設。ヒルホテルサンピアレジャープールもあり、夏季期間中も市民ニーズに十分対応していると考えています。

#### ④ テニスコート

——資料P9読み上げ

#### ⑤ ゲートボール場

——資料P9読み上げ

#### ⑥ 武道場(剣道場、柔道場)弓道場

武道場について伊賀上野武道館に武道場についてすでに耐用年数を過ぎており、公共施設最適化計画では二期の縮小他施設移転の施設であることから利用ニーズを把握したうえで、どこに移転させるか検討の必要があります。伊賀上野武道館については建築年度が1983年ということで耐用年数が30余年。2017年にはすでに耐用年数が切れて老朽化がかなり進んでいます。だが利用ニーズがあるので機能を維持しながらどこかに移動する必要があります。

#### ⑥ その他

阿山B&G海洋センタートレーニングルームと大山田B&G海洋トレーニングルームだが、両施設ともダンスや武道と幅広く利用され利用者数も多く地域住民のニーズに適合した施設です。

#### ⑦ 管理棟

各スポーツ施設の管理事務所として機能しているが上野運動公園スポーツセンターの老朽化が著しく、規模を縮小し建て替える必要があります。運動公園の管理棟は、運動公園には必ず必要なので、規模を縮小して建替える必要があると考える。

#### ⑧ 施設全体

——資料P11、12読み上げ

以上がカテゴリー別課題です。

(会 長) カテゴリー別の分類状況ですが、この項目について、質問意見はありませんか。

(委 員) ちょっといろんな立場から幾つかお願いしたいことがあります。

ひとつは、レクリエーション協会をしていますが、今年は障がいがある人のスポーツに着目してボッチャを中心に、スポーツ推進委員と共に同じ方向で歩んでいるが、大会を開くにあたって一番困るのは、障がいのある人を一人でも入れれば、当然多目的トイレが必要になります。それから、スポーツというと汗をかいてやるのがイメージできますが、障がいのある人のスポーツはどちらかというとそうでない部分があり、例えば、暖房のきいた冬場であれば、暖房のきいた施設が必要となってきます。そういった障がいのある人もこれからスポーツをしていく面において施設を充実させていく必要があるのかなと感じているところです。

それから仕事上のことで気になっていることがあります。学校で、夏のプールの使用が小学校ではほとんどできないと思います。夏休みに入って大抵の学校は開放していますが、朝の時点で水温が30度を超えています。朝の暑い中やってきて、プールの中に入ったらお風呂みたいだと、基準を設けて閉鎖というかたちになります。閉鎖した時に子どもたちの行き場所が、伊賀市の場合は市民が自由に使えるプールが不足していることを考えると、伊賀市の子は泳げなくてもいいのかという話になってくるように思えます。プールの整備も遊びも、サンピアは遊んでいるプールもいいが、自分で目標を立てて泳げるようになろうかという子どもについては、そういう受け皿の施設が必要になってくると思います。とりあえず、その2点です。

(会 長) はい。この件についてどうですか。

(委 員) 管理棟の部分で、規模を縮小で建替えと書いてありますが、いま使っている管理棟には荷物がたくさん置かれていると思います。そういうのも管理棟を縮小して荷物を置けるところを別にする形をとってもらわないと、縮小だけ考えてもらったら、たぶん競技場の荷物がどこに置けばいいのかということになるので、そこも考えてもらいたい。

(会 長) 障がい者が利用できる施設は、現時点では、そこまで考えてある施設というのは、バリアフリーもありますし…

(部 長) 体育館だったら、県立ゆめドームぐらいしか、きちんとユニバーサルデザインとしての対応ができていないのかなと思います。これは重要な視点なので⑨の施設全般というところに今後の整備や改修の基本的な考え方として位置付けていく必要があるだろうと思います。従って⑨施設全体と書いてあるところにしっかり位置づけておく必要があると思います。そこが視点、考え方としてできると思います。

それからプールですが、大山田B&Gのプールというのでは、ここも夏は朝から水温が高いのですか？

(事務局) ここは屋根があるのでもう一つ高いが、誰でも入れるプールなので学校のように即中止にしたりとかはなくして、監視員に水分補給をすとか指導をしながら十分に安全に配慮し

ながらプールの施設は使っている。温度が高いからといってすぐに中止にしたりはしていない施設です。

(部 長) 透明ガラスの屋根があるんですね。

(事務局) 夏場は、室内は 50 度くらいになるのかな。水温はそれより低いので・・

(部 長) 低いが 30 度は超えるだろう。

(事務局) 盛んに水を出しながらしているところです。

(部 長) 室温を下げる、空調を入れる、そういう対応はないですか。考えられないですか。

(事務局) 水を補給するしか、水道水とか井戸水とかしかないです。オーバーフローさせる感じ  
です。

(委 員) そういう対応しているが、屋外ではなく冷房の入った屋内プールを完備して、夏だけでなく一年中利用できるの施設があれば。思っているのは学校のプールを全部廃止にして、大きな屋内プールを作って、学校施設の運用にかかる費用でバスで連れて行って、そこで専門のトレーナーがいて専門的な水泳の授業ができるという理想的だと思うんですが。そこ  
まで言うと無理があるかもわかりませんが。

(部 長) 実はそういう計画をしたこともありました。ところが各学校が運営上の問題で、バスに  
乗せて連れて行って、距離もあるし時間がかかるということで、上手くいくはずがないという話  
があったりしました。あと、民間施設の利用という部分で、うまく考えられるかどうかという点  
ですが。一時、小田の運動公園プールで故障して中止にした時は、民間のスポーツクラブにお金  
を出してお願いして入るようにさせてもらいました。屋内です。民間施設の受け入れてくれる  
所との契約などがうまくできたら、そういう対応ができるかというのも一つですかね。プール  
で、新しい施設を作って管理していくのは、なかなか大変なことと思っています。それを一つ  
に絞ったり、まあいろんな話、再編の中でいろいろ具体的な話をしてもらったら。民間の利  
用も、これから考えていかないといけないのかなと思います。

(会 長) あと、指導員を付けて指導する施設を作るとなると、相当経費がかかってくるので、  
なかなか難しいので民間を活用する手もあります。昼間だと一般の人が少ないので、その期  
間に。学校のプールも 7 月がいいですが、6 月の中旬は寒くてほとんど入れない状況です。  
8 月になったらほとんどの学校はプールを開放していません。だんだん減ってきています。  
夏休みで監視の人がなかなか来てくれない状態もあって。

(委 員) 何かあった時に、責任は PTA にかぶってくるのでね。

(会 長) 東小学校は、夏休みは使用しないということで、今年は東小学校のプールを市が借り上げていました。開放しない学校がかなり増えているので、夏休みになると、終わりが昼になると炎天下の中歩いて帰ると熱中症になる方が苦しい。いろんな問題があるので学校の今の状況だと授業で効率的に使っていけないというところでは、大事な施設です。

(委 員) 水泳の指導は学校の先生はできるのですか。

(会 長) できます。体育は全部指導しますから。専門的なことはできないが基礎的なことはできます。

(委 員) 郡部の利用が少ないと思うのですが、やはり人口も少ないですね。また田舎の方というのは1週間に1回草刈りをします。時間の使い方が変わってきます。町の中心部の人と、その辺少ないわけだが、少ない答えを書くにあたっては、もうちょっといい言葉がないのか。

(事務局) それはどの施設ですか。

(委 員) 郡部には少ない。町の人と田舎の人の時間の使い方が違うということ、環境が違うということも、この文言の中に入れてもらわないと、町の人と一緒にいいのか、というのが田舎の人の言い分だと思います。その中でどうしていくかはこれから考えていかなければいけないが、振興法に基づいた取り組みはしていかなければいけないが、少ない少ないというだけではなく、施設の問題はそれでもいいですが、その次どの様に展開していくかということについては、そのことを踏まえていかなければいけないように思います。

それと、表が書いてありますが、最終的には一般の人にも公表しますよね。だから表の中でそれぞれ頭を書いてある7ページの①なら、体育館等屋内施設の何を示しているのか、親切に丁寧に書いた方がいいのかなと思います。人というのではなく、利用者数と書くとか。

(部 長) それは私も思いましたが、稼働率評価とか偏差値評価とか訳の分からない言葉が出て。

(事務局) すみません。この表は未完成のところがありまして。

(委 員) 一般の方にもわかりやすいように。

(事務局) 例えば説明を入れながら書きたいと思います。先程言われた、阿山は郡部だが、施設によっては結構利用があります。阿山とか大山田のB&G海洋センター。

(委 員) B&G に関しては阿山の人が利用しているのではなく全体が利用しているのだと思います。上野に施設がありながらも、何で阿山に来るのか、という人もいます。上野ならもっとゆっくり利用できるのに、阿山へ来たら、それが施設の特徴があつて、阿山のゲートボール場は人工芝であったり、そこを考えないといけないと思います。ただ多い少ないだけでは判断ができません。

(部長) はい。私も言っていたがカテゴリー別の分析では、まだまだ、これだけのデータだけでは足りないだろうと思います。例えば体育館でも種目別に分けたらバレーボールで使っているのか何で使っているかわかりません。この人数をさらに種目別の利用状況に分けて考える必要があるのではないかとというのがひとつ。併せて、体育館というのは、ほとんど学校にもあるわけで、学校開放の状況もここに加える必要があります。あるいは民間の体育館はないのか。もうひとつは他市との比較という部分が必要になってくるのではないのでしょうか。人口10万人近くの他市では、市営体育館というのはどんな感じで持っているのか、そういう他市と比較して分析する必要があるのではないのでしょうか。それと委員が言ったように地理的状況とか位置的状況というのも地図の中で落として、人口集積地からどのくらい離れているかという分析も必要になってきます。

(委員) それともうひとつ。利用時間帯という問題があります。体育館は、いつも夜はうまっていて100%の利用になっているが、人数的にはそんなに増えません。だから人数は少なくても、夜間は使っているという。時間帯の稼働日数というものを。

(委員) まず、見にくいですよ。スポーツはやるのもあれば見るのもある。うちはくノーだが、上野公園競技場の利用者数は、観客は入っているのか、それともプレイヤーが入っているのか。

(事務局) プレイヤーです。

(委員) プレイヤーですか。では観客は入れてない？ 逆に言うと、それはスポーツ施設が持つポテンシャルなので、そこは入れるべきじゃないですか。有料観客試合をしている競技はどれだけあるかわかりませんが、もちろん無料でもいいです。中体連の中でどれだけお客さんが来ているか、そこは取っているかどうか分からないですが、いま市が持っている体育施設のポテンシャルだと思います。もう一点。管理棟は何を利用しているのか。

(事務局) 会議室があります。

(委員) 会議室利用とか、先ほど部長が言われた偏差値とか、要は、これをもって何の結果が欲しいのか。今掲げている課題というのを数値化しています。ここから次にどういう答えを求めていくかということで、ではこれを閉鎖しようとか、改善していこうとか、万人が見て、だからこうなのかというデータにしていきたいと思います。

(会長) もうちょっと見やすく、わかりやすい表にしていただけたら。他にありませんか。

(委員) 9ページの④から⑤にかけてですが、例えば④のテニスコートに関して、老朽化している施設、極端に利用人数が少ない施設については縮小し、大会が開催できるように施設集約について検討していくと。縮小して大会が開催できるように検討していくことで書いてい

る意味は分かりますが、⑤のゲートボール場に関しては、極端に利用者数が少ない施設については検討していく必要があると。この文章では廃止を検討するのか縮小を検討するのか分かりません。

(事務局) これは縮小方向で進めるということです。書き足りませんでした。極端に少ないのはいがまちスポーツセンターのゲートボール場と、しらさぎ運動公園だが、運動公園として一体とした施設の中の施設ということで個別なゲートボール場ではないので違う施設にするとか広場にするとか、使っていないということで縮小方向で進めなければなりません。

(委員) 最初の話で、部長からあったかもしれないが、要は市の財政が今までどおりに行かないということで、なるべくお金は施設の維持に出さないということだと思うが、縮小すればあまりお金はかからないのでしょうか。廃止にした方が逆にお金がかかるのですか。お金がかかってもニーズがあれば、縮小しても規模を小さくして管理者がいないようにしていくのか、面積を少なくして細々としていくかどうなのか。止めてしまってもお金はかかるのか。

(事務局) 縮小というのは廃止も含めるので、例えば、面積を少なくするのも縮小だし、廃止するのも縮小になる。

(会長) 他にはどうですか。

(委員) 利用者数の少ない多いの基準はありますか。数字だけで言うのでしょうか。実際利用している皆さん方は、常に利用している人は必要と理解する。一般的に利用してないから利用者が少ない場合と、そこは判断が難しいですね。

(事務局) 市が考えている縮小というのは、全くその施設を使用できない状態にするのではなく、市の体育施設ではなくて、地域で管理していくような形で自由に使ってもらえるように管理していく方法で縮小していきたいという考えです。そうすれば、今の形を変えずにスポーツ施設ではないが、地域で管理しながら施設を自由に使うというかたちでの縮小になります。

(委員) なかなか地域の皆に管理してもらい地域に負担してもらうのは難しいのでは。

(事務局) そうですね。それは住民の理解が必要です。

(委員) 使うのは地域の人だけではなく他からも来ますか？

(事務局) だいたい、こういった地域の極端に少ない施設は地域住民が使っている施設が多いので、そういった方向で話を進めていきたい。

(委員) 理解してもらったらいいですね。地域で管理してくれと。なかなか難しいですが。



(委員) 競技として使えない施設もあります。陸上競技場もほとんど使っていない現状です。小学生の大会も名張でしょうかと思っています。なぜなら競技に合った施設でないから使えない。そんなことを考えていただかないと、数字だけで考えると、何で陸上競技場が少ないのかとなると、使えない競技場だから使っていない。種目によって使えるように施設を造っていただきたい。改修にしても、そのようにしていただきたい。

(委員) 陸上競技場は公認をとっていないのですか。

(委員) とれません。

(事務局) 陸上競技場のことは施設全体という⑨のイに課題としてあげます。

(委員) 課題で終わる気がします。サッカーも、あのままでは大きな大会はできないと思います。芝生だけが生きているだけで、あとの周りは施設がないので。だからスポーツ振興がだんだん遅れていく気がします。

(委員) 陸上競技場でも砂場はシートを被せたままです。

(委員) 砂場だけでは選手は練習ができないから意味がないです。それなら、まとめて名張や水口へ行ったら全天候のグラウンドが同じ値段で使えるので。交通費の問題だけで、そっちへ行ってしまう。中体連も名張でやっています。伊賀市では陸上の競技の大会はできません。

(委員) サッカーは？

(委員) サッカーも大きな大会はできません。そうですね。

(委員) できません。

(委員) しぶしぶ国体で使えるが、本来は使えない競技場だ。高いお金を出して芝生を整備してもらっているが大きな大会はできません。

(委員) 正規のは取れないのですか。

(委員) 取れますが設備がありません。

(委員) そういうのはどう考えているのか。

(事務局) 一応、国体が開催されるので、それに向けての整備はしていく予定です。

(部長) 一番大きいそういう施設では、先ほどから話している、見る設備、観客席を整備しな

ければなりません。最低 5000 席必要とか、例えばなでしこリーグでもプロ化するには、プロ化の 5000 席の客席を用意しなければならないとか、そういう状況になってきています。また、駐車場の問題とかいろんな課題が出てくるので、最終的に大きく検討してもらわないといけないこととなりますが、今言っていた陸上競技場のことは、ここはサッカー専用にしようとか、そんな話を本当にやってもらうことになるかもしれない。併用ではやっていけません。

(委員) 人口も 10 万をきって、だんだん減ってきている市に立派な施設が必要かどうかなのか。

(部長) もちろんそういう問題も含めて検討する過渡期が来ています。先ほどからの話、ゲートボール場もなくそうと言っていますが、高齢者が増えてくるなかで、将来のスポーツニーズ、健康スポーツへ、どういうものが将来的に必要なってくるのか、それを含めた上で、ここの中では全然分析されていません。現状の利用者数、将来予測、将来どんなスポーツニーズが出てくるのかという方向性が何も検討されていないので、そこも含めた検討が必要になってくるのではないかと思います。今言われたとおり、これだけ人口が減ってきているのに大きな競技場をつくって守ることができるのか。

(事務局) そういうことはわからないが、部長が言われた他市と比較してどうか、他市はできているのに伊賀市はなぜできないのか。他所に行ったら大きな市町村でもないのに立派な施設があるわけです。そういうところはどこやっているのか、というところを勉強していかないとはいけません。

(部長) そのとおりだ。

(会長) 陸上競技場をみても伊賀市のようなところはない。

(委員) どんな小さな町でももう少し良い。

(部長) 全天候型の施設がありますね。

(会長) その方が、管理が楽ですよ。

(部長) 雨の時の対応も。

(委員) いろんなことを考えていくと、一時にお金はかかるが、10 年 20 年先を考えていくと、だんだんコストが下がってきます。長い目で見るならそのことをみた方がいいですね。どの施設をとってもそうです。中途半端です。

(委員) 10 年先を見たら人口が減ってくるのはどこでも一緒です。それに耐えられるものをつくる、改修していくことが大事だと思います。

(会 長) それとさっき、なでしこリーグのプロ化の話がきていましたが。

(委 員) 正直、待ったなしです。20年前の男子のJリーグ創設の時を思い起こしてほしいのですが、それとほぼ同じです。プラス世界的な流れ、男子と違って女子は加味されているので結構シビアなことが出てきています。ここで隠すことではないが、決まっていることが少ないです。ただ待ったなしのところまで来ています。先ほどの競技場だけの話で行くと、たぶん伊賀で試合はできないということになり兼ねない怖さを持っています。東員町からは5000人規模の競技場を創ろうとっていて、東員にできるならうちもできるだろうということもあって。その辺、言われたように研究していただき、湯郷もそうだし、小さい町でもできます。その辺を参考にさせていただければと思います。

(部 長) うちも合併して施設が多くあります。今後将来に向けて残していく部分、スクラップする部分、廃止してなくす部分、残していく部分、作る部分、そこを明確にしないとイケない時期がきています。こういう検討をいただいているが、そのあたりをはっきりしていく必要があります。全てを新しく造ることは絶対にできないので、スクラップしてなくしてしまっただけ何を残すのか、何を中心に据えていくのかが必要です。数とかも含めて。

(会 長) その時に、いま縮小方向がはっきりしているが、残す施設をそのまま残すだけかというのと、ちょっと寂しいかな。残すところにはグレードアップするような。

(部 長) ユニバーサルデザインだけでもグレードアップしたい。

(会 長) そういうところが大事だと思う。

(部 長) 1億1000万円くらいを毎年指定管理者に支払っているが、それが、施設の数を減らすことによって浮いたお金を、整備、修繕費へ回していけたらという考え方です。

(会 長) 他にどうですか。

(委 員) 毎回言っているが、「やる」と「見る」とあるので、これも先ほども言ったが、これはやるどころ、これは見るどころという議論をしていくべきです。

(会 長) そういえば今伊賀市の施設で見る施設がついているところはない。市民体育館もないし。運動公園と、県営だがゆめドーム、その2つですかね。あとはスタンドも簡易スタンドもない。逆に見る場所がないという、待機する選手が待機する場所もないことにつながる。見るという観点がないのかもしれませんが。利用する人が荷物を置く場所さえないという、そんな状況になり兼ねないこともあるので。

(委 員) 見る、ささえるというところが、今、市民体育館にすらありません。そういうのをもっと考えて今スポーツ少年団をやっています。ここで客を集められるのは、くノ一だけだが、

くノーのスタンドもあれだけでは困ります。バックスタンドで立っていたら高齢者は疲れる。やはり全面スタンドを付けて、幕を早く外せるようにしないとイケません。

とりあえず私の立場から言わせてもらったら、子どもたちがもっと活動できる場が欲しいということです。学校の運動場も限界、体育館も今言っているように支えてくれる親が入って見る場所がありません。バレーにしても、ボールが飛んでいけば、やっている子どもたちより、ついてきている小さい子どもが危ない。2階にスタンド系統のものがちょっとあれば、大分変わってきます。やはり施設の問題だと思います。小さい子どもにも運動してもらいたいため、そういう場を作ってもらいたいです。

(会 長) 課題ということでいろいろ出してもらっていますが、あとないですか。それでは続いてアンケート分析に入ります。

#### 第4 体育施設アンケート分析

(事務局) このアンケート分析は前回から特に変更はありません。

(会 長) この分析について質問はありませんか。表の見方、表し方というところでは、見やすい、見やすすくない、分かりにくいとかあるかもしれないが、その辺も含めてどうですか。

(事務局) 先ほども出ましたが、伊賀市の将来のために充実させるべき体育施設は何かという質問がありました。14ページの③です。多かったのが、体育館の充実と市民プール。温水プールとか年中利用できるプールだと思いますが、それとサッカー場です。続いて陸上競技場。ここで出た課題を充実してほしいという意見が出ました。皆もそう思っているということです。

(委 員) 商業の跡地の進捗はどうなっていますか。

(事務局) 契約は終わり、12月中に図面を持参するということだがまだです。遅れてはいるが来年の10月着工を目標に進めています。プロポーザルで温水プールという施設ができるということであの土地を貸しています。それも市民のニーズに対応しているのかと思います。民間利用ということで考えているところです。

(会 長) 前に聞いたかもしれないが、13ページの②だが、ジョギング、ランニング等が一番多い。次にその他が多いのですが、中身は分かりませんか。

(事務局) 今はちょっと分かりません。

(委 員) 今思うのは、このトレーニングルームの利用が多い。フィットネスとか健康体操とかヨガ教室とかあるが、それがその他に入っている気がします。結構利用者が多いので文都のやっているのを見ても、黒字が出ているのはフィットネスだけです。毎回定員を超えている

みたいで、かなりニーズが高いんですかね。

(委員) 高いですよ。

(会長) その他の18.2%はそれが入っていると。軽スポーツができる施設の空調も最低限必要になってくると思うが、そういうのが必要かと思います。

(委員) 健康体操、体操系ね。体を動かす軽体操が人気ありますね。

(会長) 激しい運動ではなくてね。

(事務局) アンケート結果ありました。その他は、ヨガ、骨盤ストレッチ、ストレッチ系の種目がそれにあたります。

(会長) そのニーズが高いということは、施設作る時にそれを踏まえて作っていかないと。

(委員) 健康体操でも公民館を使っています。体育館に行かないのは空調がないから。夏は暑いし公民館なら温度が管理できるので。

(会長) 飛んだり跳ねたりしないので、畳みでもできますからね。それより空調が効いていないと汗をかきますからね。

(部長) そうすると、将来的にはそれ系の種目がさらに増えると考えられる。これからさらに。

(委員) 誰でもできる、体を動かすということが。

(会長) チャンピオンスポーツではなく、健康を維持するためのフィットネストレーニング、そういうのが増えてくるかもわかりませんね。

(事務局) 阿山B&G海洋センタートレーニングルームには冷房があったと思います。だから利用人数が多い。1万人を超えているので。2階でフィットネスやダンスをしていると思います。マシンはそんなにないですが、利用者が多いのは、そのせいかと思います。

(会長) 他にどうですか。それでは17ページの第5 市スポーツ施設以外の施設状況に移ります。

(事務局) こちらでは、市にあるスポーツ施設体育施設以外を拾ってみました。わかる範囲で掲載してあります。こういった重複のない形で進めるのも視点の一つと考え挙げました。

(会長) 一般に使用できる施設もあるがない施設もあります。

(事務局) そうです。

(会 長) サンピアにスケート場ができていますが、それは入っていませんか。

(事務局) はい。スケートリンクは入れていません。あれは夏場テニスコート2面になります。冬場はスケート場。

(会 長) スケート場は、三重県に、ナガシマができる前は上野だけだったので特徴ある施設と思います。では第5については参考程度にします。よろしいでしょうか。それでは第6のスポーツ施設再編計画の基本計画についてお願いします。

## 第6 スポーツ施設再編計画 基本計画

(事務局) スポーツ施設再編計画基本計画ということで、見直しの視点とか、基本的な考え方を基に、次の個別計画を策定したいと思うので、ここの文言を皆で協議していただけたらと思います。

——P18 読み上げ

(事務局) この7つの方向性で今後、次回だが個別計画の策定を考えているので、視点と考え方を、ここで整理し次につなげたいと考えています。以上です。

(会 長) これからの基本計画を作っていく観点というところで提案したことに付け足したいことはありませんか。

①のスポーツ施設の役割の中に、委員が言われた障がい者の方に配慮した、あるいはバリアフリーに配慮した、そういう観点を明記する必要はないですか。安全上の問題だけでなく、誰もが使える施設とか。

(部 長) ここのア、イ、ウで言えば、ウくらいで入れておかないといけませんね。それから、見るスポーツの視点も問題になりませんか。

(会 長) 先ほどいろいろ意見をもらった中で抜けているところはないか、これから見直していく中で。

(部 長) もうひとつ、最初抜けているといった、課題分析をするときに、学校開放といわれる学校施設の部分がはっきりと出ていません。これがそれぞれの地域の学校エリアのスポーツを支えている状況と、市が体育施設条例に定めて担う部分ともうちょっと分析したうえで、はっきり、地域のスポーツはこの学校の開放なのでこうやって担っていただく、市の施設はこうあるべきというところをしっかりと出さなければいけない気がします。

(会 長) 観点で抜けているところはないですか。

(委 員) アの利用者の固定化というのは、どういうことですか。

(事務局) 地域住民だけの、という固定化です。そういう施設については見直さないといけないのではないのでしょうか。

(委 員) 難しいところがあるのでは。部長が言われたことと逆行するところがある。

(事務局) 学校開放は、必然的に最終的に残す計画であるので固定化しても構わないと思います。この施設は全地域の人が対象になるスポーツ施設なので、固定化は地域住民しか使えないとか、そういう施設については具合が悪いです。学校開放の施設は地域住民がスポーツ振興に使うので固定化しても結構な施設だと思います。

(会 長) ②のアに施設数と書いてあるが、「見る」という観点で、施設の規模も必要ではないでしょうか。体育館ひとつでも、ゆめドーム体育館もひとつだし、市民体育館もひとつです。

(部 長) 規模、機能ですね。先程も言っていたバリアフリー。

(事務局) 具体的にどんな文言を入れたらいいですか。地域ごとの配置数、施設の規模と機能か。

(委 員) 数は要りません。数にこだわらない方がいい。施設規模、むしろ施設機能ですね。

(事務局) どんなに必要とされているのか、地域ごとのニーズですかね。

(委 員) 地域ごとの配置数とはどういうことですか。これは学校も入ってますか。

(委 員) 地域数というのは、各郡部にひとつとか、自治会にひとつとか、そういう考え方でいいですか。

(事務局) 人口密集地と人口の条件にもよっても違ってきます。どういう表現にしたらいいですかね。

(委 員) 市の規模に見合った配置というのを、例えば充実した良い施設がひとつあって、ほかは一般的な施設に。平均ではなく、デコボコがあっても市の状況を満たせたらいいですよ。

(委 員) 良い施設がひとつ、見る、ささえるを備えた施設は、そんなに地域になくてもいいです。地域にあるのは、する、ぐらいでいい。見る観点から言うと、そんなに大きな物を地域にひとつはできないので、差別はつけた方がいいと思います。

(会 長) さっきのアンケートを見ると、施設に行くには自動車と書いてあります。駐車場完備のところ、場所より大事になります。

(委 員) 学校施設は学校によって全然違うのでしょうか。例えば府中とか神戸とか、地域のスポーツクラブがあるところは自分の地域の体育館として、ほとんど地域の方が使っています。私も壬生野小学校の体育館は旧いがまちのバレーボール体育館より2面とれて広い体育館です。そうすると府中の小学生が沢山使っています。地域は全然使っていません。だから地域の中にどれだけニーズがあるかによって、いくら学校施設に同じものがあったとしても使われ方が違います。

ここに地域にある学校施設を入れてしまうと、地域にとって整合性が取れなくなると思うので、市全体の広い範囲のスポーツ施設で考えた方がいいのではないのでしょうか。

(会 長) 学校開放は前提としてあると考えていいのでは。

(委 員) それでいいと思います。

(会 長) それ以外の施設で考えた方がいいか分かりませんね。

(委 員) 発想の転換で、①②に分ける必要があるのでしょうか。並べてしまっっては。

(委 員) それなら整合性がとれるのではないのでしょうか。あるいは、進めるわけではないが、施設というのはこうだ、というのをウの下にエで書いておけば。

(事務局) この四角に分ける必要がないということですか。細かいことを書かず、市の規模にあった施設で、エで細かく書くと。

(委 員) 数はいりません。先ほど言われた障がい者のこととか、ウになるのか②のイになるのか入れておいたらどうですか。

(会 長) 観点としてはそれくらいでいいですか。

(委 員) もうひとついいですか。皆の話の中に出ているが、いずれ古くなるじゃないですか。10年経つと皆古くなります。そうした時に、次に新しいものが欲しくなります。これは10年先の話で、20年経ったら今の施設は全て駄目になってきます。その後のことで、施設の集中化という話になりますが、次建てる時は集中化しようではありませんか。運動公園の近隣、阿山の近隣を中心にした最終の計画というのをどこかに入れてほしい。

(事務局) 一応⑦の競技スポーツの振興についてのところに上野運動公園エリアと阿山運動公園エリアの市内2つのエリアを改修し進めると書いてあります。



(委員) これは、古くなり建替えることになったときには、集中化と両面で考えていくと受け止めていいですか。

(事務局) 今考えているのは再編計画ですので。

(委員) 再編といっても、いつまでも再編できていない。言っているのは近い将来のことと違って、もっと夢のある話を持ってほしい、持ちたいというのがあり、20年先30年先になるのか50年先になるのか。50年先はこの人は誰もいないです。そういうことも昔の人はこういう話してくれたというのが欲しいのではないかと、思います。

(部長) 今までの話を聞いて、ひとつは既存施設をどのようにするのかという視点、それと集約化と長寿命化があります。既存施設は何とか早く修繕して、寿命を長く持たせる、長寿命化計画とありますが。それと、夢のある全く違う施設にしていけないといけません。分かりにくいのは、基本方針の中で見直しの視点と基本的な考え方、これは何が違うんでしょうか。もうちょっと整理した方がいい気がします。

既存施設を見直す視点はこうだと。その中に集約化とかニーズが高くなってくる施設、これからバリアフリーとか夏の水泳をどうするとか、新しい時代に応じた社会的な変化や、見るスポーツをどうするとか、そういう新しい社会情勢のニーズに応じて施設を見直す視点と、大きくはこの2本くらいの気がします。

この中で、細かいそれらを見ていく時に、ユニバーサルデザインで将来的な施設計画を作らないといけないとか、そういうところが出てきます。

ひとつは既存の施設がありすぎるので、どうしていこうか、という視点。それと将来の集約化とか長寿命化とかがひとつ。大きくはこのふたつです。基本的な考え方が一緒にできるのかなという気がしています。

(委員) 2045年まで予想を書いているので、本当に今の施設、2045年まであるのかという話で、手を加えながらも使えるのでしょうか。

(部長) 使っていかなければなりません。全部更新できるわけもないので、

(委員) もう一回そういう視点で整理し直したらどうか。

(事務局) 視点についてもう一回、整理し直す。既存施設と今後の未来みたいな、2つの視点で整理します。既存施設の今後の個別計画を策定する中の考え方については、7つぐらいの基本的な考え方、方向性で、次回の審議会には個別計画を上げたいと思います。

(委員) アイウエオは、重要度順と違うのか。

(事務局) 項目別というところで、重要度別ではないです。いずれも大事。

(委員) いずれも大事。

(事務局) 既存施設のいずれも大事といったが、利用頻度と利用者数というのが既存施設の中では一番大事と思って、既存施設を見るうえでは、やはり施設の利用頻度と利用者数が重要と思います。

(会長) だから廃止していく施設と、残して充実していく施設との見分けをしていくというのが、廃止するだけの施設ではなく、残すところに長寿命化と充実化という2つの観点から考えてほしい。減らすだけではさみしいです。ということで、基本計画、個別計画をこれから立てていただきますがよろしいでしょうか。基本的にはこの観点でと。付け足しをしてもらいましたので、それを含めて考えていただくということで。

(事務局) 個別計画については、施設ごとに個別計画をするということで。先ほど基本計画も、いろいろ修正点があったので、そちらも修正しながら、個別計画の方も次回には提案させていただきたいと思います。

(会長) 今日はそこまででよろしいでしょうか。この計画は2020年から始まるわけですね。来年4月からですね。

(事務局) パブリックコメントで意見も聞き、政策にもかけないといけないので、できたら、皆さんの任期の8月までにと考えています。

(会長) いつまでもダラダラしていても。

(事務局) 一回、きりをつけなければいけないので。

(委員) 最後にひとつだけ、なぜこの資料が見にくいのかと思ったら、西暦と和暦を併用しているからですね。平成しかのっていないのに、二千何年となって、5ページの平成32年とか存在しているわけです。これを西暦に合わせるのか、併記でいくのか、そこを合わせていただけたらと思います。

(事務局) 修正させていただきます。

(会長) できたら建築年数、何年に建ったかを書いていただいたらわかりやすい。全体通して何かないですか。それでは、今回はこれで終了します。